



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月9日

上場会社名 データセクション株式会社
 コード番号 3905 URL <http://www.datasection.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 澤 博史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 望月 俊男

TEL 03-6427-2565

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	404	2.5	8		11		7	
29年3月期第3四半期	415	39.0	49	443.1	45	221.8	30	195.6

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 6百万円 (%) 29年3月期第3四半期 30百万円 (205.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	0.64	
29年3月期第3四半期	2.94	2.64

1. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はあるものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	1,864	1,806	96.0	154.34
29年3月期	1,175	1,073	89.3	99.18

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,789百万円 29年3月期 1,050百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	650	9.5	20	74.7	15	78.9	9	73.2	0.86
	～ 850	～ 43.1	～ 170	～ 115.1	～ 160	～ 124.6	～ 104	～ 186.0	～ 9.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	11,598,000 株	29年3月期	10,591,000 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	11,287,975 株	29年3月期3Q	10,412,882 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料 P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用情勢、所得環境に改善が見られ、緩やかな景気回復基調が続いている一方で、実質賃金の伸び悩みによる個人消費の低迷やアジア諸国経済の景気減速、地政学リスクの高まりなどを受け、依然として先行き不透明な状況が続いております。

また、当グループが所属するITサービス市場におきましては、引き続き好調な市場環境を維持しており、人工知能(AI)ビジネスの国内市場は平成32年度には1兆20億円、平成42年度には2兆1200億円に拡大するといわれています。特に金融業のAIビジネス市場は年平均46.2%で成長すると試算されております。(※1)

こうした状況を踏まえ、当グループでは、長期的な展望に立ち、新規事業の開発を継続的に実施しております。

特に、人工知能(AI)による事業展開を推し進めており、当第3四半期連結会計期間においてはAI解析の新技術開発、並びにAIでの新たな展望を見込める事業体について株式取得による子会社化の意思決定を行うなど、将来的な収益増に向けた活動を以下のとおり行いました。

①AIプラットフォームによるソリューション開発

「AIのすそ野を広げることが未来を創る」をテーマとして掲げ、AIプラットフォーム「MLFlow」を開発し、α版をリリースしました。また、当第3四半期連結会計期間においては当社におけるソリューション開発にも「MLflow」活用し、開発期間の短期化につなげています。なお、今後、AI開発のプラットフォームの整備をさらに促進し、散在する技術やノウハウを有機的に融合させて、革新的な技術創出につなげていきます。

②ドローンによる太陽光パネル自動点検事業開始

当社は、株式会社ブイキューロボティクス(本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：出村 太晋、以下「ブイキューロボティクス」と)と、6月に業務提携を結び、当社が保有する「AIを活用した映像解析技術」とブイキューロボティクスが保有する「ドローンの自動航行技術」の組み合わせによる様々な「警備・点検業務の完全自動化」の実現に向け、協働で事業化を進めております。当第3四半期連結会計期間においてはその第一弾の取り組みとして、メガソーラーにおける点検業務の効率化に向けた太陽光パネルの自動点検を事業化し、サービスとしてご提供する運びとなりました。

当社は、点検自動化ソリューションのうち、画像受け入れから解析、異常検知の技術を提供しております。

当社独自のプラットフォーム「MLFlow」によって、通信により受け取った画像の解析から検知結果出力までの自動化を実現しました。人手による作業が不要となることで検知スピードが劇的に向上し、ドローンによる撮影後当日中の点検レポート出力を可能としました。

③KAGネットワークソリューションズの株式取得

平成29年12月27日開催の取締役会において、基幹システムの運用保守業務をメインに行う、KAGネットワークソリューションズ株式会社(以下、「KAGネットワークソリューションズ」という。)の株式を取得し、同社を子会社化することについて決議しております。

今後の将来的な業界展望として、システムの運用保守業務にもAIが導入・活用されていくことが予想されることであり、当社としてもその分野には積極的に参入をしていきたい考えです。システム保守運用業務にAIを導入するにあたっては、AIに全面移行する前の人的なサポートが必須であり、KAGネットワークソリューションズがその人的サポート業務の中心的な担い手となることを想定しております。

④ソーシャルメディアマーケティング(国内・海外)

これまで当社が強みとしてきたソーシャルメディア分析のノウハウを生かしつつより広範な消費者行動の分析を行うため、国内、海外とも当社のソーシャルメディア分析やAI解析を行うサービスモデルを確立しております。今後も効果的なマーケティングの加速化が見込まれます。

なお、当第3四半期連結会計期間においては以下のリリースを行っております。

- ・10月4日 「データ流通推進協議会」設立開始発表のお知らせ
- ・11月2日 データセクション、リアルタイムでAIによりスパム投稿を監視するソリューションの提供を開始
- ・11月13日 新たなAIのインフラMLFlow (Machine Learning Data Flow) α版公開
- ・11月14日 「データセクション×マイクロアド」業務提携ベトナム初、ビッグデータの分析に基づくマーケティング支援サービス『Life Up』の提供を開始
- ・11月14日 ソリッドインテリジェンス、KDDIグループのワイヤ・アンド・ワイヤレスと業務提携
- ・12月26日 データセクション、ニッチなニーズを発掘する新サービスを提供開始
- ・12月27日 KAGネットワークソリューションズ株式会社の株式の取得（子会社化）に関するお知らせ

当社においては、今後もAIのプラットフォーム提供を中心とした事業展開によりAIのすそ野を広げ、様々な社会的課題の解決に取り組めます。この取り組みによりAIビジネスをさらに成長させ、事業規模を飛躍的に拡大してまいる所存です。

(※1 出典：富士キメラ総研)

以上の結果、売上高404百万円、営業損失8百万円、経常損失11百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失7百万円となりました。

サービス別の状況は次の通りであります。

イ. SaaSサービス

SaaSにおきましては、ソーシャルメディア分析ツール「Insight Intelligence」、書き込みアラートサービス「Insight Checker」、テキストマイニングツール「Easy Mining」、事故・災害情報検知サービス「Social Hazard Signage」及び不適切投稿監視サービス「Social Monitor」などのラインナップを擁しております。ソーシャルメディアに対する企画ニーズの拡大に合わせ、提供製品を拡大しております。

ロ. ソリューションサービス

ソリューションにおきましては、顧客が持つ「自社内ビッグデータ」を基に、当社グループで蓄積されている「ソーシャル・ビッグデータ」を組み合わせ、前述のSaaSサービス技術を活用したセミオーダー型システム開発を行うものです。一般商社向けに商品やサービスを提供する大手メーカー、サービス提供会社、広告会社・PR会社、コンサルティング会社等の広報部、宣伝部、コンサルティング部、営業戦略部、経営戦略部、リスク担当部などを対象顧客として、自社内に保有するデータを有効活用したいというニーズに応えるサービスです。

ハ. リサーチコンサルティングサービス

リサーチコンサルティングにおきましては、SaaSで提供するサービスだけでは自社の要望を可視化できない顧客に対し、商品やプロモーションに対する口コミの専門家分析や、消費者と企業のつながり度を高めるソリューションを提供するものであります。ビッグデータの活用を経営課題としはじめた、大企業をはじめとする多くの企業からの引き合いが増加しております。

また、企業間取引にビッグデータを活用したいと考えるニーズへの対応にも取り組んでおります。情報サービスベンダー向けに、Web上のデータクローリング技術を活用した新しい企業データベース構築支援の提供を行っております。これらの取り組みにより、これまでのBtoC企業に加え、BtoB企業への販路拡大も図っております。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、1,468百万円となり、前連結会計年度末に比べて602百万円増加いたしました。この主な要因は、現金及び預金が623百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、396百万円となり、前連結会計年度末に比べて85百万円増加いたしました。この主な要因は、投資有価証券が55百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、53百万円となり、前連結会計年度末に比べ45百万円減少いたしました。この主な要因は、未払金が21百万円減少したこと、未払法人税等が23百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、3百万円となり、前連結会計年度末に比べて0百万円減少いたしました。この要因は、繰延税金負債の減少によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、1,806百万円となり、前連結会計年度末に比べて733百万円増加いたしました。この主な要因は、新株予約権の行使に伴い資本金及び資本剰余金が746百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月12日に「平成29年3月期 決算短信[日本基準(連結)]」にて公表いたしました平成30年3月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	720,166	1,343,329
受取手形及び売掛金	123,202	87,352
その他	21,957	37,369
流動資産合計	865,327	1,468,051
固定資産		
有形固定資産	44,289	55,238
無形固定資産	113,875	131,167
投資その他の資産	152,149	209,696
固定資産合計	310,314	396,102
資産合計	1,175,641	1,864,153
負債の部		
流動負債		
未払金	42,684	20,807
未払法人税等	24,308	311
その他	31,553	32,181
流動負債合計	98,545	53,300
固定負債		
資産除去債務	3,510	3,510
その他	470	392
固定負債合計	3,981	3,902
負債合計	102,527	57,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	515,530	888,825
資本剰余金	293,156	666,451
利益剰余金	241,454	234,223
株主資本合計	1,050,141	1,789,500
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	159
為替換算調整勘定	247	337
その他の包括利益累計額合計	247	497
新株予約権	3,987	6
非支配株主持分	18,738	16,945
純資産合計	1,073,114	1,806,950
負債純資産合計	1,175,641	1,864,153

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	415,516	404,725
売上原価	192,060	228,528
売上総利益	223,456	176,197
販売費及び一般管理費	173,875	185,068
営業利益又は営業損失(△)	49,580	△8,871
営業外収益		
有価証券運用益	-	1,225
消費税免除益	1,089	-
匿名組合投資利益	-	3,776
その他	109	189
営業外収益合計	1,198	5,191
営業外費用		
持分法による投資損失	3,780	4,359
株式交付費	-	3,063
為替差損	1,174	49
その他	71	59
営業外費用合計	5,026	7,531
経常利益又は経常損失(△)	45,752	△11,211
特別利益		
持分変動利益	-	200
特別利益合計	-	200
特別損失		
減損損失	5,870	-
投資有価証券評価損	-	1,703
特別損失合計	5,870	1,703
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	39,882	△12,714
法人税、住民税及び事業税	20,087	2,010
法人税等調整額	△10,645	△5,691
法人税等合計	9,441	△3,680
四半期純利益又は四半期純損失(△)	30,440	△9,033
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△133	△1,803
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	30,574	△7,230

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	30,440	△9,033
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	250
為替換算調整勘定	-	10
その他の包括利益合計	-	260
四半期包括利益	30,440	△8,773
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30,574	△6,980
非支配株主に係る四半期包括利益	△133	△1,793

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使による新株発行に伴い、資本金が373,295千円、資本剰余金が373,295千円増加しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が888,825千円、資本剰余金が666,451千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

当社グループは、ソーシャル・ビッグデータ事業の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

当社グループは、ソーシャル・ビッグデータ事業の単一セグメントであるため、記載は省略しております。